



**DOON UNIVERSITY, DEHRADUN**  
Semester Final Examination, Third semester

School of Languages

M.A. Integrated Japanese

Course: SLJ 204: Translation

*Time Allowed: 3 Hours*

*Maximum Marks: 50*

Note: Attempt All Questions from Section A, B and C.

**SECTION A**

**(Total Marks 10)**

Q1.

(Marks 4)

アメリカ人は人と話をする時、相手の目をじっと見て話をしますが、日本人は相手の目も見ますが、相手のネクタイや首のあたりなどいろいろなところを見ます。目をじっと見るのは失礼だと考えられているからです。招待するときもはっきり答えません。とくに「いいえ」とははっきり言わないのは、相手の気持ちを傷つけないようにしようと考えがあるからです。相手の誘いを断わる時や相手の考えと違う考えを言う時に、よく「いいえ」を使わないで「いいえ」の意味を込めて文章を言う場合があります。

Q2.

(Marks 6)

日本では、普通はよく使う言葉も場合によっては変に聞こえることがよくある。昼間、人に会った時に「こんにちは」と言いますが誰にでも使えるわけではない。一緒に住んでいるホストファミリーの家族の誰かと町で会った時、「Hi!」の意味で「こんにちは」と言う外国人がいるが、これは正しい使い方ではない。日本では、毎日顔を合わせている家族に対して「こんにちは」は使わない。また、英語ではよく「How are you?」を使うためか、「How are you?」という意味で毎日会う人に「お元気ですか」を使う外国人がいる。しかし、これも日本人はしない。毎日会っていれば元気なのがわかるからであろう。その代わりに天気の話などをして会話を始めるのが普通である。また、大多数の学生は事務室に来て話をして出て行く時「さようなら」と言って帰るが、大学生が目上の人に別れのあいさつをする時に「さようなら」とはあまり言わない。そのとき「失礼します」である。

**SECTION B**

**(Total Marks 20)**

Q1.

(Marks 6)

日本には気をつけなくてはいけないことがたくさんあります。日本人はお客さんに「コーヒーでもいかがですか?」と聞きます。お客さんは「いいえ。結構です」と言ったのに、5分あとでまたもう一度同じ質問をしたら、お客さんは「じゃあ、頂きます」と言う場合もよくあります。日本人はたいてい2、3回「コーヒーでもいかがですか?」とか「お茶はいかがですか?」とか聞きます。それは、どんなに飲みたい時も1回目は遠慮して「いいえ。結構です」という人が多くいるからです。飲みたい時は2回目か3回目に「ありがとうございます。遠慮なく頂きます」と言います。

Q2.

(Marks 14)

最近の「いじめ」の特徴について少し考えてみます。まず、大きな特徴は、同じ子どもが、いじめられたり、いじめる側になったりすることだ。昔の学校では、「ガキ大将」がいて、彼が絶対的な力を持っていて「いじめ」の中心となり、いじめられるのはクラスのなかの弱い子供だった。ところが、最近ではいつもいじめられる弱い子供も、ほかの子供がいじめられると、いじめる子と一緒にになってその子がいじめる場合が多いそうである。それは、もしほかの子供と一緒にいじめないと、後で自分が再び「いじめ」の対象になる可能性があるからである。

次に、教師・親との対話不足によって、解決できる問題も解決されない場合が多いことが特徴だ。科学技術が発達するにつれて、学校で勉強する内容が非常に難しくなってきたので、子供は毎日毎日勉強で忙しいし、専業主婦が少なくなり、働く女性が増加しているので、親と子供が家でゆっくり話をする時間が少なくなっている。又、昔は何か問題があるとすぐ教師に相談したもののだが、今の子供は、自分達だけで問題を解決しようとして、教師に相談したがる。もし誰かが教師に話をすると、「告げ口」と見なされ、「いじめ」の対象にされることが多い。そこで、いじめられたくない子供は何も言わなくなり、教師も対話不足のために子供達の間で何が起きているかわからなくなるわけだ。

### SECTION C

(Total Marks 20)

Q1.

(Marks 10)

大学で三年ぐらい日本語を勉強すると、日常会話でよく使われる重要な文法はだいたい全部習い、辞書を使えば新聞の記事も何とか読めるようになる。会話もかなりできるようになる。しかし、日本の社会、文化、習慣についての知識が不足しているために、日本に着いてから、様々な問題に直面するだろう。例えば、日本人同士の会話では、最後まで完成した文を言わないで、終わりが不完全なまま文が終わってしまうことがよくある。例えば、「今晚一緒に酒でも飲みに行きませんか？」という質問に対して、「今日はちょっと、、、」と答えたり、「宿題はどうしたんですか？」という先生の質問に対して、学生が「きのうの夜忙しかったのですから、、、」と答えたりする。何か相手に都合が悪いことを言わなければならないような場合、特にそうである。禁煙の場所でたばこを吸っている人に、「あのう、ここ禁煙なんですけど、、、」とか、図書館で大きな声で話している人達に、「あのう、ちょっと声が、、、」とか言い、相手に自分の意図をわかってもらう。完全な文でなくても、聞き手は話し手が何を言いたいかすぐ理解できる。最後まで文を言う必要はなく、それでコミュニケーションが立派に成立する。日本人は「、、、」の部分は何を意味するか判断できるが、訓練を受けていない外国人には慣れるまで少し大変であろう。

Q2.

(Marks 10)

日本では子供の時から大学に入るためによく勉強しますから、大学に入ったら勉強しなくなる。テストの前に少し勉強すればテストにパスするし、成績が良くなくても両親にあまり強く文句を言われません。自分の子供の成績を知らない親がいるようですが、親に成績を全然見せない学生もいるらしいです。日本の大学生になってとても便利だと思うことは、旅行したかったら大学からもらった書類を切符を買う時に見せると20パーセントぐらい安くなることです。それは「学割」です。映画館や美術館でも「学生料金」というのがあって学生の切符は少し安くなります。大学のなかに「学食」という学生の食堂があって、ほかのレストランよりずっと安く御飯が食べられます。それから、アメリカでは大学に入ると親の家を出て一人で生活するのが普通ですが、日本の大学生は両親と一緒に住んでいる人が多いです。それは、日本は物価が高いし、アパートを借りるのにお金がたくさんかかるから、両親と一緒に住む人が多いのです。